

知床半島ヒグマ対策連絡会議の対応状況

○令和 2 年度第 2 回知床ヒグマ対策連絡会議

- ・日 時 令和 3 年 3 月 22 日（月）9：00～15：00
- ・場 所 標津町生涯学習センターあすばる 大ホール
- ・出席機関 環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団

○結果概要

1) 知床半島ヒグマ管理計画の総括に向けて

- ・管理計画の 8 つの目標について、各目標の事案及び課題を整理した。今後、各目標の評価を行っていく。
- ・アクションプランの各項目について、達成状況を確認した。今後、総括に向けて各項目の評価を行っていく。

2) 次期知床半島ヒグマ管理計画に向けた作業分担について

- ・2021 年度改変期における実施体制について、次年度連絡会議事務局予定である羅臼町より、過去 2 回管理計画の改変には環境省が中心になって担っていたことを踏まえ、計画改変の事務は環境省にお願いできないかという提案がされた。
- ・環境省からは、過去には委員を含めた計画改訂のためだけの検討会議が設けられたが、その後エゾシカ WG と統合され、現在のシカヒグマ WG となった。この WG の評価・助言を得ながら、連絡会議において課題の抽出及び対応状況の評価を行うことになる」と説明がされた。
- ・北海道計画の地域版という位置づけであるため、北海道も主体的に関わってほしいという意見も出された。
- ・財団職員の半数は臨時職員であり、何でも財団委託では困る。増員には恒久的な財源が必要である。
- ・この連絡会議の位置付けを改めて確認する必要があるので、WG で確認する。

3) 知床半島ヒグマ管理計画に関わる意識調査について

- ・R 3 年に実施される意識調査について、住民向け及び観光客向けのアンケート調査(案)がそれぞれ報告された。調査用紙及び返信封筒は環境省により用意される。
- ・住民向けの調査については、10 代以下を含めない対象住民から各町 750 人を抽出して調査用紙を送付し、各町 300 枚の回収を目標とする。個人情報取り扱いに係る対象者の抽出から送付までは各町が実施する。
- ・観光客向けの調査については、各町のレジャー施設等に設置して、各町 1,000 部配布し、300 枚の回収を目標とする。

4) 知床半島春季ヒグマ人材育成事業の実施について

- ・アクションプランの目標の一つでもある人材育成について、これまでに試験的実施に向けた検討を行ってきた。実施には猟友会等との調整も必要ではあるものの、まずは知床財団とヒグマ情報センターの職員を対象とした対応連携強化を目的として、試験的に R3 年 4 月に実施することで調整する。
⇒その後、R3 年 4 月 6 日に実施された。

5) 知床ヒグマ連絡会議における事務局の委託について

- ・現在の事務局は各構成団体で交互に担当しているものの、人事異動などによる引継ぎの問題が依然として残る。そこで、実質資料作成や調整に動いている知床財団へ、事務局の一部を委託できないか継続して検討してきた。
- ・斜里、羅臼両町と知床財団は、通常の委託業務の中に会議等の準備が含まれているものの、その他の関係団体とは異なる。
- ・前回会議で課題となっていた予算財源について、農水省の鳥獣害総合対策事業の補助メニューについて確認を行った。今後、道振興局農務課より情報提供もらいながら、補助条件を踏まえ財源の検討をしていく。

6) 3 町におけるヒグマ対策の現状と課題について

- ・標津町では過去に 7～9 月頃にかけてトド等海獣が海岸漂着することにより、ヒグマが誘引され道路横断や海岸付近住居や施設等への出没が頻発することがあった。海獣が漂着したら町により回収および処理対策を取っている。この課題は 3 町共通の課題でもある。
- ・サケ・マスの遡上の頃に河川や海岸の釣り人が増える傾向にあり、釣り人の近くにヒグマが接近する事案も発生していることから、釣り人対策が求められる。
- ・植別川は魚資源減少のため R3 年より補完河川に位置付けられ、河口での釣りが規制される予定となっている。他河川へ釣り人が移動することが予想されるので、他河川での釣り人対策が必要になると思われる。
- ・幌別川の釣り規制については、水産部分での規制は厳しいので、エコツアー法を活用したルール作りを検討したい。
- ・コロナ対策でゴミ箱が設置されなくなったこともあり、ゴミの不法投棄が増えた。

○令和3年度第1回知床ヒグマ対策連絡会議

- ・日時：令和3年6月21日（月）15：30～19：30
- ・場所：WEB会議
- ・出席機関：環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団

○結果概要

1) 令和3年度第1回エゾシカ・ヒグマWG会議資料の確認について

- ・知床半島ヒグマ管理計画の総括など、WGに提出する資料について各議題を進めながら確認、点検した。

2) 第2期知床半島ヒグマ管理計画の総括について

- ・達成すべき8つの目標に関しては、達成される可能性が高い目標は、①メスヒグマの人為的死亡数のみで、その他の目標については、アンケート結果待ちの⑧ヒグマに関する知識の普及以外は、未達成もしくは未達成となる可能性が高いという結果になった。
- ・目標に関する評価については、各目標を達成するにはどの方策が関連するのかが紐づけられるように入れ込んだほうが良い。同様に関連するモニタリング項目も入れたほうが良い。あるいは時間的にその作業が困難であれば、管理の方策ロードマップの表中に集計中ということで欄を設けてもよいのでは。
- ・可能だが、本来連絡会議の構成員が数字を作って持ち寄るものであるため、ワーキング後になるが事務局が各機関に呼びかけて数字を集める。
- ・方策が○なのに目標が達成されていないものが多い。次のアクションプランの作成に向けた検討、整理が必要。

3) 第3期知床半島ヒグマ管理計画の策定について

- ・より分かりやすい二層構造にし、目標を抽象的、指標は数字で押さえる、という基本的方向性でよいのではないか。
- ・策定期間については、今年度ヒグマに関する状況が大きく変化する可能性もあるが、北海道計画の策定期間と合わせるためにも、当初予定通り今年度作成して来年度から5年間稼働させるのがよい、ということでおおむね了承。
- ・知床における生息数や新たな規制など、計画を変更すべき大きな要素が出てきた場合には、随時計画を変更する。
- ・計画更新の実務者に関しては結論が得られなかったため、後日別枠で環境省と北海道、知床財団、事務局の羅臼町とで議論することになった。

(6月24日10時から上記で検討した結果、改定案の素案等については知床財団がまとめるが、各町での住民説明会のセッティングなど、クマに関する知識や経験がなくてもできる作業については切り分けて、財団以外の構成員が担うことになった。また、改定

案作成作業に関しては財団が他の業者に一部外注することも含めて検討)

- ・知床の計画は、北海道計画の地域版という位置づけであるため、北海道がもっと主体的にかかわるべき。
- ・評価項目が必ずしも目標の達成のベクトルと合致していない状況が生じているため、評価が○になることによって目標が達成されるように、見直しや整理が必要。
- ・①人為的な死亡頭数の目標に関しては、従来の個体群維持とは別の観点から最低捕獲頭数も設定したほうが良いのではないか。捕獲圧が減ってしまうことで問題が生じる側面もある。
- ・現状の生息数の確度、また上限に達した際にも対策が変わらないことも考えると、捕獲上限に関しては、目安程度で推移を確認していく程度でよいのでは。
- ・捕獲上限や捕獲目標の設定数によっては、ほかの目標に影響してくることが考えられる。また、問題個体の捕獲と狩猟などの捕獲を一緒にくくってよいのか。
- ・捕獲数については、推進費による推定数が出てから再検討するのが現実的ではないか。
- ・②人身事故の発生件数については、捕獲従事者（ハンター）は一般と切り分けるのがよい。北海道の親計画での集計は切り分けていないが、知床では中長期では全数の集計、5年間ではハンターは切り分けて集計という整理でよい。
- ・③羅臼町の漁業活動に関わる危険事例については、昆布番屋が減少しているため、今後は「地域住民」と同様のくくりにし、目標⑦については削除する。しかし、水産加工業者に関しては「事業者」に含めるにしても何らかの形で特出しして残しておきたい。
- ・④農業被害については、継続したうえで、被害金額ではなく被害面積で比較するのがよい。
- ・⑤市街地への出没件数については、羅臼町が大半を占めることから、斜里町と標津町は現状維持とし、羅臼町についてはゾーン4の設定範囲や集計基準などについて別途検討が必要。
- ・⑥「目標ヒグマの知識を現状以上に浸透させる」の評価は、アンケート結果が出てから判断する。

4) 野生鳥獣被害調査第3号様式について

- ・3町ともヒグマ出没が多すぎて全てを反映できていないため、今後の作業方法については、北海道が別途協議の場を設けることで合意。